



KANSAI UNIVERSITY

関西大学 シラバスガイド

2025.11

関西大学 教育推進部

関西大学 シラバスガイド

Contents

I シラバス作成について

シラバスとは.....	2
シラバス作成のメリット	2
簡単!シラバスの入稿方法	2
教育のPDCAとシラバス作成の関係性	3
1つの授業と「学部・研究科等の教育目標」をつなぐシラバス	3
シラバス項目.....	4
シラバス記入上のポイント	8
オンデマンド配信授業の実施(シラバス作成)にあたって	9
オンデマンド配信授業の授業設計を考える	10
オンデマンド配信授業モデルシラバス	11
オンデマンド配信授業実施ガイドライン	13

II 大学教育のTOPICS

1 授業設計と実施

TOPIC① 授業時間外学習を促すコツ	18
TOPIC② アクティブラーニングの推進	18
TOPIC③ 学習意欲や学習効果を高める「教員からのフィードバック」の有効性 ..	19
TOPIC④ オンデマンド配信授業に関する支援	19

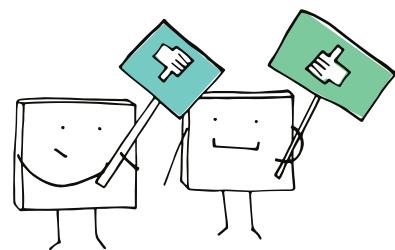
2 学習評価と学習成果

TOPIC⑤ ループリックの評価を授業でどのように使うのか	20
TOPIC⑥ 「ループリックの使い方ガイド」の閲覧・入手	20
TOPIC⑦ ニューノーマルの学習評価をどう考え実施するのか	21
TOPIC⑧ 「授業評価アンケート」から学習成果を問う「授業アンケート」へ ..	21

3 教育支援と学習リソース

TOPIC⑨ 教育支援ツールの紹介	22
TOPIC⑩ 学部学生の日本語の文章作成をサポートする「ライティングラボ」 ..	22
TOPIC⑪ 教育・学習におけるChatGPT等の生成AIツールの利活用について ..	23
TOPIC⑫ 障がいのある学生の修学支援における合理的配慮の提供について ..	23

I シラバス作成について



シラバスとは

シラバスは学生と大学・授業担当者とのコミュニケーションツールであり、学生が履修しようとする授業科目の目的・内容・計画・成績評価方法その他をあらかじめ学生に提示し、授業の教育目標を的確に学生が理解することを目的としています。

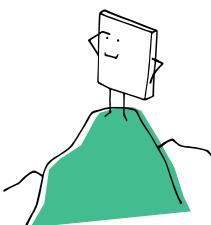
特に、学位授与の方針（＝学部・研究科等の教育目標）を意識してシラバスを作成することで、学部・研究科等の教育理念と個々に行われる授業の目的、そして当該授業を通じて達成されるべき到達目標に関係性が生まれるだけでなく、大学全体として考慮力ある人材を育成することにつながります。

また、シラバスを作成・明示することは義務化されており、大学設置基準「成績評価基準等の明示等（第25条の2関係）」において、事前に年間の授業計画を学生に示すことが定められています。

シラバス作成のメリット

学生にとって

- 授業を選ぶ際の重要な情報！
- 学習計画が立てられる！



教員にとって

- 授業計画の立案ができる！
- 教員間で授業内容が共有できる！

簡単！シラバスの入稿方法

1 ウェブシラバスシステムへのアクセス



関西大学ウェブサイト

(<https://www.kansai-u.ac.jp>) 内
右上 [メニュー] ⇒ [学生・教職員専用 (インフォメーションシステムほか)] ⇒ [インフォメーションシステム] をクリックすると、ログイン画面が表示されます。



利用者 ID とパスワードを入力し [ログイン] をクリックします。



インフォメーションシステム・トップページが表示されます。左メニュー [教務情報] ⇒ [シラバス入力] をクリックします。

注意事項

ウェブシラバスシステムは別ウィンドウで起動しますが、すべての入力作業が終るまで絶対にトップページを閉じないでください。入力中のデータが失われます。

2 授業科目選択

担当科目一覧						
学部・研究科		授業形態	授業科目名 (管理番号)	組	状況	選択
商	審		経済入門 140122(044820)	1	作成中	登録
商	審		経済入門 140123(044820)	2	作成中	登録

シラバス担当科目一覧画面が表示されます。初期状態はすべての科目の「状況」欄が「未入力」となっています。作成する科目の **登録** ボタンをクリックしてください。

→ シラバス入力へ

※担任科目のうちシラバス入力が不要な授業科目については、「状況」欄が「登録不要」となっています。

3 お願い

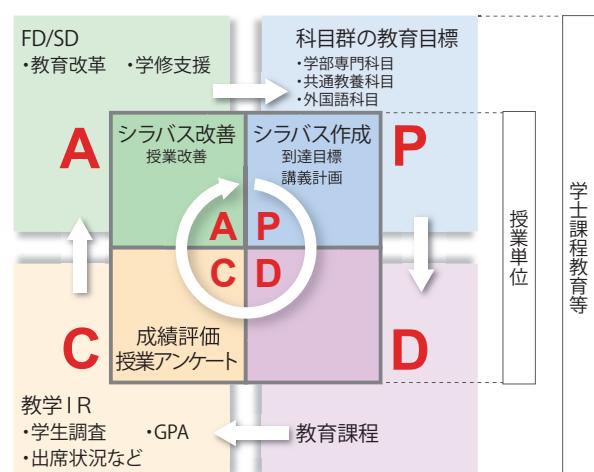
入力が終わりましたら、締切日までに、担当するすべての科目の「状況」欄が「公開待ち」となっていることをご確認ください。

教育の PDCA とシラバス作成の関係性

授業目的や到達目標と、学部・研究科等の教育目標との関係が明確になっているかを確認のうえ、シラバス作成に取り組んでください。

また、シラバスの作成にあたっては、教育の PDCA のプロセスを意識して作成することが重要です。到達目標や講義計画などは Plan であり、Do は計画に基づく授業実施、Check は成績評価や授業アンケートによる授業実施結果の検討をさします。さらに Action は、検討結果に基づく次の結果に向けた、シラバス改善や授業改善を意味します。

シラバス作成後においても、シラバスを活用した講義を運営し、適切な評価による結果をもとに教育内容や方法等の改善を継続的に行っていくことが重要となります。



1つの授業と「学部・研究科等の教育目標」をつなぐシラバス

2020 年度以降のシラバスでは、科目ごとに「学部・研究科等が定める教育目標」を明示することになりました。「学部・研究科等の教育目標」と担任する科目の関係性を整理することで、教育課程（カリキュラム）を通じて育成すべき学力・資質能力を可視化することが目的です。

本学が掲げる「考動力（自らの頭で自主的によく考え、自律的かつ積極的に行動する力）」を具現化する資質能力を「5つの力・10の能力」に整理し、「考動力コンピテンシー」として設定しており、「学部・研究科等の教育目標」もこれに準じています。

授業担任者は、「学部・研究科等の教育目標」を確認のうえ、それを踏まえて、担当する科目の「到達目標」や「基準・評価」を検討いただき、シラバスにおいて学生に明示いただきますようお願いします。



シラバス項目

※以下の内容は、全学共通の内容であり、学部・研究科等個々の留意点等は別途ご案内します。

1 授業概要

(1) 授業種別（入力不要）

「講義（対面）」「講義（遠隔）」「外国語科目（対面）」「外国語科目（遠隔）」「演習（対面）」「演習（遠隔）」「実験・実習・製図（対面）」「実験・実習・製図（遠隔）」「その他」のいずれかを初期設定していますので、ご確認ください。

(2) 言語（必須・プルダウン）

授業で主に使用する言語をプルダウン選択で設定してください。

(3) 授業概要（必須）

授業全体を通してのテーマ、授業内容の概略などを明確に記述してください。学生が何のために当該授業を履修するのかについて、当該授業の位置づけや学位授与方針を踏まえて記述してください。授業を履修する学生の持つ知識で理解できる範囲の言葉で記述してください。

(4) 学位授与方針との関係（入力不要）

各学部・研究科等が定める「教育目標」を示しています。

教育目標は「学力の3要素」（①知識・技能の観点、②思考力・判断力・表現力等の能力の観点、③主体的な態度の観点）から構成されています。

当該科目で養う能力が教育目標に定められた能力にどのように結びつくのかを明らかにしたうえで、授業や成績評価などを行うことで、学生にわかりやすく学修成果を説明することにもつながります。

※表示されている内容は、学部・研究科等が設定した内容であり、担任者が変更することはできません。

※複数学部開講科目については、開講学部・研究科等の教育目標が表示されます。他学部・研究科等の学生には、開講学部の教育目標が表示されていることがわかるように付記しています。

(5) 到達目標（必須）

(4) の「各学部・研究科等の教育目標」を踏まえ、授業の到達目標をわかりやすく簡潔に記述してください。

初期値に上記「学力の3要素」の枠があり、前年度入力した担任者はその内容が予め挿入されています。3要素全てを記述する必要はありませんが、①～③の項目名に沿って到達目標を記述してください。

※到達目標は、その授業を通じて学生が身につくことができる学力を示すため、学生を主語とした文章にしてください。

また、評価可能な形で、より具体的に記述することが望まれます。

< 到達目標（例示）>

①知識・技能の観点

- ・メディアを利用したいくつかの授業実践例とその効果と課題について説明できる。

②思考力・判断力・表現力等の能力の観点

- ・学習目標を達成するために適したメディアを選択し、それを活用した簡単な教材やワークショップをデザインできる。

③主体的な態度の観点

(6) 授業手法（必須）

該当する授業手法にチェックを入れてください（複数回答可）。

⑦その他の手法は、①～⑥以外の手法をお使いの場合は記載してください。

具体的な内容については、「授業計画」に記載してください。

2 授業計画

(1) 授業計画 (必須)

本学は、学部等が指定した一部の科目を除き、全科目において対面授業 14 週とオンデマンド配信授業 1 回の構成を原則とします。15 回の講義で、到達目標が達成できる計画を記述してください。各週について、具体的かつ明確な記述にしてください。同一テーマの授業を複数の週にわたって行う場合は「第 4 ~ 6 週」等のようにまとめて記述していただいても結構です。また、オンデマンド配信授業回に関するテーマ・学習時間（授業動画の時間・学習課題に取り組む時間）を明記してください。

(2) 授業時間外学習 (必須)

予習・復習などの授業時間外学習の指示を下記のように記述してください。授業時間外で学習する内容や 1 週あたりの時間など、学生が予復習に関する学習計画が立てられるようにご記入をお願いいたします。

< 授業時間外学習 (例示) >

- (例①) 概念の定義、学説や判例の内容をしっかりと理解できるよう、テキストを読み込んでください。
- (例②) 本授業は、授業内にグループワークの時間を確保するため、教科書をまずは読んでくることを予習として毎回の授業に課します。
- (例③) 本授業では、授業後に課題を課します。次の授業までに関大 LMS に提出してください。この課題には 30 分程度かかります。
- (例④) 本授業では採点から授業を開始しますので、事前に関大 LMS にある小テストを受けてください。

3 成績評価の方法・基準・評価

(1) 方法① (必須・プルダウン)

評価方法はプルダウン選択で設定してください。

成績評価の方法

【必須項目】 1~5 のいずれかを選択してください。

1. 定期試験（筆記試験）の成績で評価する。
2. 定期試験（筆記試験）と平常成績で総合評価する。
3. 定期試験を行わず、到達度の確認（筆記による学力確認）で評価する。
4. 定期試験を行わず、到達度の確認（筆記による学力確認）と平常成績で総合評価する。
5. 定期試験を行わず、平常試験（小テスト・レポート等）で総合評価する。

(2) 方法② (必須・記述式)

選択した方法①の評価割合を示してください。

(例) 定期試験（筆記試験）: 70% 小テスト・ミニッツペーパー: 30%

なお、(1) 方法①において、3・4 を選択された場合、以下の文言が自動挿入されます。挿入された文言は、削除しないでください。

履修者が多数になった場合には、成績評価方法を「定期試験」に変更することがあります。成績評価方法が変更になった場合は、
インフォメーションシステム等で連絡します。

(3) 基準・評価 (必須・記述式)

初期値に① ~ ③の「学力の 3 要素」が挿入されています。「到達目標」に合わせて、基準や評価の方針・割合についてもご記入ください。

なお、出席点については、総合的に評価する中で出席を加味することは問題ありませんが、出席のみである程度の点数を与えるなどの評価方法は記載しないでください。

【プルダウンで選択する成績評価方法との関係】

(共通教養科目・専門教育科目)

プルダウンで選択する成績評価方法	試験実施期間	採点対象	追試験等対象
1、2	授業期間終了後の定期試験期間中	定期試験を受験者した者のみ採点対象	やむを得ない理由で定期試験を欠席した者
3、4	到達度の確認（筆記による学力確認）を実施	到達度の確認を受験した者のみ採点対象	やむを得ない理由により到達度の確認を欠席した者
5	授業期間中に試験・レポート等により評価	履修者全員	なし

※評価方法3、4を選択した場合、履修登録（変更）締め切り後、履修者数が講義実施教室の「試験定員」を超過している場合は、「3→1」、「4→2」にそれぞれ変更し、定期試験期間中に筆記試験を実施することになります。

当該クラスの担任者には、教務事務担当者からその旨を連絡しますので、担任者は直近の授業において、成績評価の方法が変更となる旨を受講生に直接説明するとともに、併せて関大LMS等でも周知してください。

シラバスに記載されている成績評価の方法を変更する必要がある場合は、春学期においては4月中旬から下旬頃、秋学期においては10月中旬から下旬頃に各担任者宛に連絡いたします。

(外国語科目)

プルダウンで選択する成績評価方法	試験実施期間	採点対象	追試験等対象
4	到達度の確認（筆記による学力確認）を実施	到達度の確認を受験した者のみ採点対象	やむを得ない理由により到達度の確認を欠席した者
5	授業期間中に試験・レポート等により評価	履修者全員	なし

4 教科書・参考書

教科書及び授業の準備や予習・復習に役立つ参考書を記述してください。

学生はここに記述された「教科書・参考書」を購入するため、教科書と参考書は明確に区別し、著者、書名、出版社、ISBNは正確に入力してください。

5 フィードバックの方法

学生の学ぶ意欲を喚起するため、受講生全体または学生個別に対して授業内の小テスト、ミニッツペーパー、レポート等のフィードバックを予定している場合は記述してください。

6 担任者への問合せ方法

初期値に「オフィスアワー」と「その他」が挿入されています。「オフィスアワー」とは、学生と教員のコミュニケーションを充実させるために設けられた時間帯のことであり、授業外でのサポートの他、例①のように教室内での対応を含みます。学生が何らかの方法で教員に問合せできる仕組みをご提示ください。

シラバスはあらかじめ学生に提示し、授業の教育目標等を的確に理解するためのものであるため、「最初の授業時に指示する」とはせず、例示にあるとおり具体的な問合せ方法を記載してください。

< 担任者への問合せ方法 (例示) >

オフィスアワー

- (例①) 授業の前後に応じて対応する。
- (例②) 火曜3時限に個人研究室で対応する。

関大 LMS

- (例③) 関大 LMS の「メッセージ」機能で連絡してください。

メールアドレス

- (例④) ××××★ kansai-u.ac.jp までメールをください。
※「★」記号を「@」に置き換えてください。

7 備考

受講上の注意に加え、オンデマンド配信回に関する授業情報を明記してください。また、必要であれば、系統的に科目を修得していくうえで、「修得するまたは修得しておくことが望まれる科目」についても備考に記述をお願いいたします。

なお、「修得するまたは修得しておくことが望まれる科目」につきましては、「各学部・学科等からのお願い」が別紙にございます。ご確認いただきますようお願いいたします。

学部・学科等からの要望が示されていない場合、「修得するまたは修得しておくことが望まれる科目」を記述する必要はありません。

< オンデマンド配信回に関する授業情報 (例示) >

- (例) ①配信元：関大 LMS、②配信時期：第 13 回授業終了後から 7 月末日まで、③質問対応：質問は対面授業時または関大 LMS のメッセージで受け付けます。

< 修得するまたは修得しておくことが望まれる科目 (例示) >

- (例①) 以下の科目を修得していることが望れます。未修得者は各自学習しておいてください。「経済学入門」、「基礎ミクロ経済学」
- (例②) 社会学史を修得するか修得しておくことが望ましい。
- (例③) 1、2 年次配当の英語科目を修得しておくこと。
- (例④) 論理回路、順序回路の科目を修得するか修得しておくことが望ましい。

シラバス記入上のポイント

【シラバス作成にあたってのお願い】

- 原則、全科目において対面授業14週+オンデマンド配信授業1回の実施が必須となります。
次の内容を確認のうえ、シラバス作成をお願いします。
- Check1 「授業計画」欄でオンデマンド配信授業回に関するテーマ・学習時間(授業動画の時間・学習課題に取り組む時間)を明記してください。
- Check2 「成績評価の方法、基準・評価」および「フィードバックの方法」において、オンデマンド配信授業に関する課題等に関する言及する場合には、その旨記載してください。
- Check3 「備考欄」でオンデマンド配信授業回に関する情報(①配信元(関大LMS等)②配信時期/期限③質問等の対応方法)を明記してください。

※ その他留意点については、「オンデマンド配信授業実施ガイドライン」をご確認ください。

学部・研究科 Faculty/Graduate School	法/文/経/商/社/ 政策/外/シ/環/化	時間割コード Course Code	00001
科目名 Course Title	教育論	授業形態/単位 Term/Credits	春/2
サブテーマ Subtitle		クラス Class	A1
担任者名 Instructor	○ ○ ○ ○	曜限 Day/Period	火3
■授業概要 Course Description	授業種別 / Teaching Types		
到達目標 Course Objectives(必須)	講義(対面)		
※フリーフォーマット	言語 / Language 【必須】		
	日本語(Japanese)		
	授業概要 / Course Description 【必須】		
	本講義では、「学ぶこと」「教えること」の質を高める教育実践について考えます。具体的には、新学習指導要領で提示されている「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、学習目標をどう設定し、その目標を達成するためにどのような教育方法・評価方法を選択することが望ましいのかについて、学習理論に基づきながら実践的に検討します。教育環境、方法・評価、教師の役割、授業設計について学び、子ども達の能力を最大限に引き出す教育実践のあり方を提案します。最終的には、実践力を培うため、21世紀を生き抜く新たな知識と能力を獲得するための教育実践を具体化する授業案を作成します。		
	学位授与方針との関係 / Related Diploma Policy		
	①知識・技能の観点		
	・		
	②思考力・判断力・表現力等の能力の観点		
	・		
	③主体的な態度の観点		
	・		
	到達目標 / Course Objectives 【必須】		
	①知識・技能の観点		
	・メディアを利用したいくつかの授業実践例とその効果と課題について説明できる。		
	②思考力・判断力・表現力等の能力の観点		
	・学習目標を達成するために適したメディアを選択し、それを活用した簡単な教材やワークショップをデザインできる。		
	③主体的な態度の観点		
	・ICTを活用した教育実践を実施しようとする意欲を高めることができる		
	授業手法 / Teaching Methods 【必須】		
	・教員による資料等を用いた説明や課題等へのフィードバック		
	・プレゼンテーション(スピーチ、模擬授業等含む)		
■授業計画 Course Content(必須)	授業計画 / Course Content 【必須】		
	第1回 「教える」と「学ぶ」の関係を考える		
	第2回 学習理論の変移		
	第3回 新しい学習理論の展開—社会的構成主義の学習観— (中略) 第4回～第12回の回数ごとに記入		
	第13回 演習(授業デザインをシェアしよう)		
	第14回 新たな学びの形を引き出す教育とは		
授業計画内にオンデマンド配信授業回に関するテーマ・学習時間(授業動画の時間・学習課題に取り組む時間)を明記してください。	オンデマンド配信授業回 授業評価を考える(授業動画30分×2、学習課題30分)		
質保証の観点から、授業動画と学習課題を組み合わせて90分相当となるように時間を記載してください。	授業時間外学習 / Expected Work Outside of Class 【必須】		
授業動画を複数本に分ける場合は分割本数と各本の目安時間が分かるように記載してください。	(例)		
	①本授業は、授業内にグループワークの時間を確保するため、教科書をまずは読んでくることを予習として毎回の授業に課します。		
	②本授業では、授業後に課題を課します。次の授業までに関大LMSに提出してください。この課題には大よそ30分程度かかります。		
	③本授業では採点から授業を開始しますので、事前に関大LMSにある小テストを受けてください。		

講義全体を通してのテーマ、
講義内容の概略を明確に記述してください(学習者の持つ知識で理解できる範囲の言葉で記述してください)。

初期値に①～③の「学力の3要素」が挿入されています。
3要素全てを記述する必要はありませんが、①～③の項目名に沿って到達目標を記述してください。

授業時間外で学習する内容や1週あたりの時間など、
学生が予複習に関する学習計画を立てられるように
ご記入をお願いします。

■成績評価の方法、基準・評価 Grading Policies / Evaluation Criteria / Assessment Policy (必須) ※プルダウン選択 + 記述式(評価割合)	方法 / Grading Policies 【必須】 方法①:定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。 方法②:平常試験(小テスト・レポート等)100% 基準・評価 / Evaluation Criteria・Assessment Policy 【必須】 ①知識・技能の観点 •基礎的な概念や用語の定義・内容を問う設問 (20%) •語句説明問題 (20%) ②思考力・判断力・表現力等の能力の観点 •学説及び授業デザインを捉える視点に関する論述問題 (30%) •オンデマンド授業での授業デザインに関する小レポート課題 (10%) ③主体的な態度の観点 •毎回の授業後に課す振り返り (10%) •グループ活動への関与に対するループリックを用いた評価 (5%) •授業に対する主体的な関与に関する観察者評価 (5%) 教科書 / Textbooks 秋田 喜代美 『学びの心理学 授業をデザインする (放送大学叢書)』 (左右社) ISBN:4903500853 参考書 / References 高垣マユミ 『授業デザインの最前線—理論と実践をつなぐ知のコラボレーション』 (北大路書房) ISBN:9784762827082 ■フィードバックの方法 / Feedback Method ※フリーフォーマット (例①) 関大LMSやインフォメーションシステムを通じて、最終試験結果の全体的な傾向をコメントします。 (例②) 中間時に実施した小テストについて、採点後に返却します。 (例③) 毎回の授業で実施したミニツツバーカーは、次回授業時に返却します。 (例④) オンデマンド授業の小レポート課題は次回の対面授業でコメントします。 ■担任者への問合せ方法 / Contact the Instructor オフィスアワー (例①) 授業の前後に応対する。 (例②) 火曜 3 時間に個人研究室で応対する。 関大LMS (例③) 関大LMSの「メッセージ」機能で連絡してください。 メールアドレス (例④) ××××★kansai-u.ac.jpまでメールをください。 ■備考 / Other Comments ※フリーフォーマット (例) ①配信元：関大LMS、②配信時期：第13回授業終了後から 7月末日まで、③質問対応：質問は対面授業時または関大LMSのメッセージで受け付けます。	初期値に①～③の「学力の3要素」が挿入されています。
次の3点を明記してください。 ①配信元(関大LMS等)②配信時期/期限③質問等の対応方法	オンデマンド授業で実施した課題等の成績評価について言及する場合は、ご記入をお願いします。	学生の学ぶ意欲を喚起するため、課題やレポート等のフィードバックに関する方法を記載します。
配信日時を確定できない場合は、学生が確認できる方法(関大LMSで通知する等)を記載してください(例:具体的な配信時期等は、関大LMSの「お知らせ」に掲示します)。	受講生全員または学生個別に対して、授業内の小テスト、ミニツツバーカー、レポート等のフィードバックを予定している場合には、ご記入をお願いします(任意)。	オンデマンド授業で実施した課題等へのフィードバックについて言及する場合は、ご記入をお願いします(任意)。
		オンデマンド配信回に関する授業情報を明記してください

オンデマンド配信授業の実施(シラバス作成)にあたって

オンデマンド配信授業の授業動画、学習課題等は、対面授業と同様に、原則毎年度見直しを行います。次の内容を確認のうえ、授業の実施ならびにシラバス作成をお願いいたします。なお、所定の手続きを経てオンデマンド配信授業を行わず、15回対面授業を実施する場合※には、学生にその旨をわかりやすく明記してください。具体的な記載方法については、モデルシラバスをご参照ください。

※ 対面授業とする科目的取り扱いは学部によって異なります。15回対面授業の実施を検討している場合は、学部担当者等にお尋ねください。

・オンデマンド配信授業の授業設計を考える p.10

オンデマンド配信授業の学習活動、授業デザイン、配慮すべき事項などが記載されていますので、オンデマンド配信授業を実施するにあたり、ご確認ください。

・オンデマンド配信授業モデルシラバス p.11

・オンデマンド配信授業実施ガイドライン p.13

オンデマンド配信授業を適切に実施するための方法等が記載されたガイドラインです。ガイドラインに則り、オンデマンド配信授業の実施をお願いします。

オンデマンド配信授業の授業設計を考える

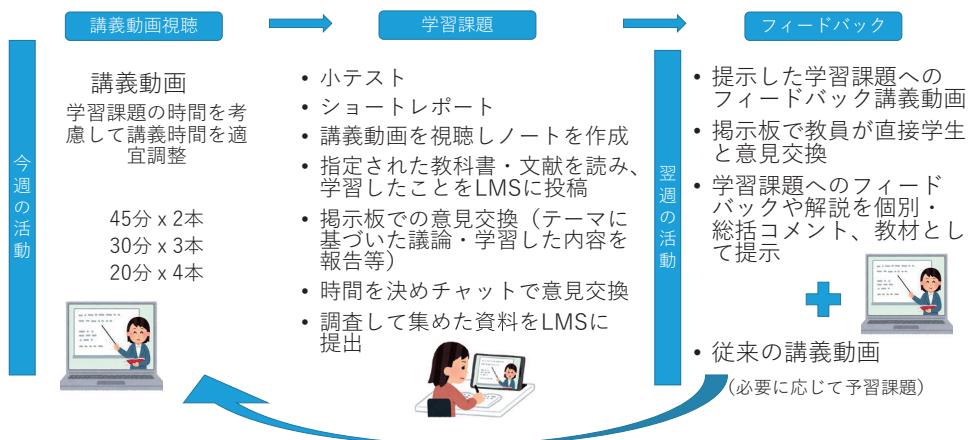
1. オンデマンド配信授業と学習課題

オンデマンド配信授業は、講義を録画し配信することに加えて、受講生の学習課題を導入することが重要になります。学習課題を取り入れることで、学生が講義を通して学んだことを自ら確認できるからです。学生が学習目標に到達できたのかを判断する機会を得ることは、自律的な学習者の育成につながります。

2. オンデマンド配信授業のデザイン

オンデマンド配信授業を設計する際は、まず「授業目標」の設定をしましょう。その後、授業目標を達成できたのかどうかを判断できる「評価とフィードバックの方法」、また授業目標を達成するための「教育内容・教育方法（学習方法）」を選択しましょう。授業目標は、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的な態度の観点から設定をし、それぞれの観点に適した評価の方法、教育内容・教育方法を考え、これらの項目がそれぞれ対応するように設計し、ずれがないように配慮しましょう。

特に、オンデマンド配信授業においては学習課題の評価やフィードバックがどのように行われるのかを具体的に示しましょう。IR推進委員会による学生調査では、授業形態に関わらず、教員からのフィードバックがあることが学生の学習成果や動機付けにより影響があったことが報告されています。回答させるだけ・提出させるだけにならないように授業設計することが重要です。



3. オンデマンド配信授業で配慮すべきこと

オンデマンド配信授業では、90分授業における講義動画や学習課題の「時間配分」と「学生へのケア」に配慮しましょう。

時間配分 学生の集中力やモチベーションに配慮し、当該科目における知識や技能を学ぶために、例えば以下のような構成が考えられます。

(例1) : 講義動画(20分)を提供した後、習得した知識や技能を活用した思考・判断・表現を育むためにショートレポートや電子掲示板への投稿など学習課題(10分)を取り入れる。この構成を3回行うことで90分の授業とする。

(例2) : 講義動画(30分)に加えて、学習課題(15分)を2回行う。

学生へのケア 学生が抱える躊躇の内容を把握し、その支援をすることが重要です。例えば、いつでも質問できる手段を伝えたり、小テストやレポートで躊躇している課題に対して補足説明をしたりして、学生が課題のやり方、内容、動機づけなど、学生が躊躇している部分を把握し、学生をケアできる体制をとっておきましょう。

オンデマンド配信授業モデルシラバス

モデルシラバス（1）

- 1回の授業をオンデマンド配信授業回とする場合 -

- ✓ 授業計画に「オンデマンド配信授業回」と備考欄にオンデマンド配信授業に関する情報を明記してください。

授業計画 Course Content	<p>授業計画 / Course Content</p> <p>第1回 イントロダクション導入—ごころとは何か、ごころをどう捉えるか 第2回 社会・文化と関わる人間 (1) 社会的認知—人どうまくつきあうということ 第3回 社会・文化と関わる人間 (2) 対人魅力—良い印象はどのように決まるのか 第4回 社会・文化と関わる人間 (3) 態度変容—物事の捉え方が変わる仕組みとは 第5回 社会・文化と関わる人間 (4) 帰属—なぜ人は理由を求めるのか 第6回 人間の個性と適応 (1) 動機づけ—「やる気」について考えよう 第7回 人間の個性と適応 (2) 欲求不満と適応規制—安定を求める人のごころ 第8回 人間の個性と適応 (3) ハーバーナリティ—性格について考えよう 第9回 情報処理体としての人間 (1) 知覚—日常を「見る」ということ 第10回 情報処理体としての人間 (2) 記憶—覚えるということ 第11回 情報処理体としての人間 (3) 問題解決—問題を考え、解決するということ 第12回 学習し、発達する人間 (1) 発達段階—発達を科学しよう 第13回 学習し、発達する人間 (2) アイデンティティー「私のことをよりよく知ろう 第14回 学習し、発達する人間 (3) 学びと文化—よりよく学び続けるには</p> <p>オンデマンド配信授業回 振り返り—心理学のさらなる学び、これまでの学習内容に関する総括（授業動画35分x2、学習課題20分）</p>
	<p>授業時間外学習 / Expected work outside of class</p> <p>予習として、心理学に関する概論書を一読しておくことが望ましい。また適宜復習として、身近にみられる日常的な出来事について心理学的な見方を踏まえてどのように理解することができるのかを論じる授業外学習を課す。</p>
	<p>方法 / Grading Policies</p> <p>定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。 授業内小テスト20%、毎回の授業中に課す授業内ワーク40%、振り返り到達度確認レポート40% 授業内の小テストでは、基本的な知識を身につけているかを確認する。 毎回の授業中に課す授業内ワークでは、心理学的な見方を踏まえたものの見方・考え方を踏まえて、課されたテーマに関する論述が行えるかを確認する。 振り返り到達度確認レポートでは、授業資料および授業で書き留めたノートを参照しながら、(1)講義内容で扱った重要なポイントがおさえられているかどうか、(2)心理学的なものの見方・考え方を日常的な問題解決に活かすことができるかを確認する。</p> <p>基準・評価 / Evaluation Criteria・Assessment Policy</p> <p>①知識・技能の観点 各回で取りあげた心理学の基礎的な概念について正しく理解できているかどうかを評価する。 ⇒授業内小テストと振り返り到達度確認レポートにより評価する。 ②思考力・判断力・表現力等の能力の観点 講義で扱った各種テーマに関する理解度および思考力を問う記述課題を実施することによって評価する。 ⇒毎回の授業中に課す授業内ワーク ③主体的な態度の観点 心理学の学びへの取り組みについて自己評価を求め、問い合わせをもって探究に向かう姿勢について評価する。 ⇒授業内での自己評価およびオンデマンド配信授業回での学習課題、授業外学習への取組み（ループリックによる評価）</p> <p>備考</p> <p>【オンデマンド配信授業回に関する情報】</p> <p>①配信元：関大LMS ②配信時期：第13回授業終了後から7月末まで ③質問対応：質問は対面授業時または関大LMSのメッセージで受け付けます</p>

モデルシラバス（2）

- 1回の授業を分割してオンデマンド配信授業を複数回する場合 -

- ✓ 「授業計画」はフリーフォーマット様式で設定すると、各回のテーマと学習時間を学生にわかりやすく伝えることができます。以下、1回分のオンデマンド配信授業（90分）を3回（30分）に分けて実施する場合のモデルシラバスです。

授業計画 Course Content	<p>授業計画 / Course Content</p> <p>第1回 オリエンテーション オンデマンド配信授業（1）グループワークの進め方とコミュニケーション（授業動画15分、学習課題15分）</p> <p>第2回 大学生生活に関する課題提示とペルソナの理解 第3回 グループ活動①前半 第4回 中間提案 第5回 グループ活動①後半 第6回 最終提案</p> <p>オンデマンド配信授業（2） フィードバック①（授業動画15分、学習課題15分）</p> <p>第7回 振り返り・チーム再編成 第8回 連携企業からの課題提示 第9回 グループ活動②前半 第10回 中間提案 第11回 グループ活動②後半 第12回 最終提案</p> <p>オンデマンド配信授業（3） フィードバック②（授業動画15分、学習課題15分）</p> <p>第13回 振り返り 第14回 総括—専門的な学びとキャリアを考える意義 オンデマンド配信授業回 上記の授業計画のなかでオンデマンド配信授業を3回行います</p> <p>授業時間外学習 / Expected work outside of class</p> <p>新聞や書籍等から様々な情報を収集・整理したうえで、それらを参照しながら課題に対して深く思考することが必要である。課題に対してグループで検討し、提案することになるため、授業時間以外の場でも自主的に集まり、準備することが求められる。</p>
	<p>方法 / Grading Policies</p> <p>定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。 授業への参加度と振り返り（45%）、グループ活動評価（15%）、プレゼンテーション評価（20%）、最終レポート（20%）。</p> <p>基準・評価 / Evaluation Criteria・Assessment Policy</p> <p>①知識・技能の観点 課題解決に、客観的な情報を収集し、提案の際に論述として提示することができたかどうか。 ⇒各種提出物、オンデマンド配信授業で課した学習課題、プレゼンテーション評価、最終レポート ②思考力・判断力・表現力等の能力の観点 価値観や考え方が異なるグループメンバーと協働することで、多様な視点を考慮に入れつつ他者に自分の考え方を伝えることができたかどうか。 ⇒各種提出物、グループ活動評価 ③主体的な態度の観点 自らの学びに責任を持ち、直面する課題に主体的に取り組むことができたかどうか。 ⇒各種提出物、グループ活動評価、最終レポート</p> <p>備考</p> <p>【オンデマンド配信授業回に関する情報】</p> <p>①配信元：（関大 LMS 等） ②配信時期： オンデマンド配信授業（1）第1回授業終了後から7月末まで オンデマンド配信授業（2）第6回授業終了後から7月末まで オンデマンド配信授業（3）第12回授業終了後から7月末まで ③質問等の対応方法：質問は対面授業時または関大LMSのメッセージで受け付けます</p>

モデルシラバス（3）

- 1回のオンデマンド配信授業を対面授業として実施する場合 -

- ✓ 科目特性や到達目標の達成を考慮し、学部が定めた手続きを経てオンデマンド配信回を対面授業として実施することが可能です。15回対面授業を実施する場合には、学生にその旨をわかりやすく明記してください。

授業計画 Course Content	<p>授業計画 / Course Content</p> <p>第1回 教育実習の目的・意義と概要 第2回 学校教育の今日的課題と現状 第3回 特別活動・部活動等の実際と参加 第4回 総合的な学習の時間・特別支援教育など 第5回 生徒理解・指導の実際 第6回 授業観察・授業実践 第7回 教材研究・教具活用 第8回 授業の展開（学習指導案の作成） 第9回～14回 模擬授業</p> <p>模擬授業を経験・観察することを通じて、以下のような視点・テーマに基づいた意見交換を行い、授業を見る目とよりよい授業を行う力を養う。 「指名・板書・発問」「ペア学習とグループ学習」「予復習・宿題のチェック」「学力差・個に応じた授業」「道徳・人権教育」「学習評価」「ホームルーム」など</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>授業時間外学習 / Expected work outside of class</p> <p>予め指定された中学校・高等学校の学習指導要領及び担当教科等の解説書の内容を読んでおくこと。 配布資料等を読み返し、授業内容の理解に努めるよう復習をすること。</p>	<p>方法 / Grading Policies</p> <p>定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。 レポート・発表等50%、授業内での貢献度・授業態度・研究意欲50%</p> <p>基準・評価 / Evaluation Criteria・Assessment Policy</p> <p>①知識・技能の観点 教育実習に向けて、教科指導、生徒指導など、学校における教育活動全般にわたって実習への準備となる必要事項を理解できたかどうか。 ⇒各種提出物、プレゼンテーション評価、最終レポート</p> <p>②思考力・判断力・表現力等の能力の観点 教材研究や学習指導案の作成の方法、授業実践力を身につけることができたかどうか。 ⇒各種提出物、プレゼンテーション評価、パフォーマンス評価</p> <p>③主体的な態度の観点 教員として求められる姿勢を学び、実践的力量を培うことの重要性を理解して取り組むことができたかどうか。 ⇒各種提出物、最終レポート</p>
	<p>備考 Other Comments</p> <p>【留意点】 この授業ではオンデマンド配信授業は実施せず15回対面授業を行います。 15回目の対面授業は、補講期間に実施します。詳細（教室、曜限等）は、 然るべき時期に随時LMS及びインフォメーションシステムで通知します。</p>	

オンデマンド配信授業実施ガイドライン

オンデマンド配信授業 実施ガイドライン

2025年10月3日制定

1 はじめに

本ガイドラインは、文部科学省「大学における多様なメディアを高度に利用した授業について」及び改正著作権法第35条運用指針に基づき、オンデマンド配信授業の要件等を定めたものである。

2 目的

本ガイドラインは、オンデマンド配信授業の設計・実施・評価に関する基本的な考え方を定め、教育の質保証を図ることを目的とする。

3 適用範囲

本ガイドラインは、授業の一部または全部をオンデマンド配信授業で実施する科目を対象とする。ただし、3時限（270分）の授業科目【2単位】の実習、実験科目の取り扱いについては、別に定める。

4 オンデマンド配信授業の要件

オンデマンド配信授業に必要な要件は次のとおりである。

(1) 授業時間90分の確保

授業計画に則し、対面授業と同じく1回90分授業とすることを原則とする。ただし、授業動画が90分である必要はなく、学習課題等に取り組む時間を含めた授業時間を90分相当とする（ただし予習・復習は含まない）。

(2) 動画形式での提供

授業担任者は音声、授業に関する文字情報（スライド資料等）等を組み合わせた形式で動画を作成し、学生に提供する。

(3) 授業に関わる学習課題の提示

授業に関わる学習課題を提示する。学習課題は、授業動画をふまえた意見交換の議題提示、ショートレポートの課題提示、小テスト等を指す。

(4) 学習課題に対するフィードバックの実施

学生に学習課題のフィードバックを行う。学習課題の実施結果をふまえ、当該授業の理解度や学習状況を確認し、意見交換やショートレポートへのコメントの提示、小テストへの解説等を行う。

(5) 双方向性（質疑応答等ができる機会）の確保

学習支援システム（関大LMS等）を活用し、授業内容に関する質疑応答や添削指導等を行う。担任者及びTA/LA等は質問への対応、学生同士の意見交換を促進する等、双方向的な学習機会を設けることで、学習効果の向上を図る。

(6) 成績評価

オンデマンド配信授業を活用した授業回は、対面授業同様に、成績評価の対象とする。ただし、初回をオンデマンド配信授業回とする場合は、履修変更等により受講環境が整っていないことを考慮し、不利にならないよう成績評価において配慮する。

(7) 配信・授業情報の提示

オンデマンド配信授業は、本学の学習支援システム（関大 LMS 等）から配信する。授業の履修者または履修希望者に対して、配信期間を明示する。オンデマンド配信授業に関する情報（学習方法、担任者との連絡方法等）は、シラバス及び学習支援システム（関大 LMS 等）に提示する。

(8) オンデマンド配信授業の更新

オンデマンド配信授業の授業動画、学習課題等は、対面授業と同様に、原則毎年度見直しを行う。

5 オンデマンド配信授業における留意事項

オンデマンド配信授業は、著作権法等の各種法令、本学の個人情報保護規程等に従って実施する。また、特に次の事項について留意してください。

- 特定の個人を識別できる情報を、本人の同意なく配信しない。
- 教材の配信、確認テストの実施等にあたって、適切な配信期間を確保する。
- 多様な学生や学生が利用するデバイスを想定して、教材の可読性（文字の大きさ・配色等）に配慮する。
- 特殊なソフトウェアを必要とする課題を課さない。
- 学生の通信料負担軽減のため、教材の容量を圧縮する。

以 上

【現行法令上の規定】

○**大学設置基準**（昭和 31 年文部省令第 28 号）（抄）

（授業の方法）

第25条 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

- 2 大学は、文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。
- 3 大学は、第一項の授業を、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。
- 4 略

○**平成 13 年文部科学省告示第 51 号（大学設置基準第二十五条第二項の規定に基づく大学が履修させることができる授業等）（以下、「メディア授業告示」）**（抄）

通信衛星、光ファイバ等を用いることにより、多様なメディアを高度に利用して、文字、音声、静止画、動画等の多様な情報を一体的に扱うもので、次に掲げるいずれかの要件を満たし、大学において、大学設置基準第二十五条第一項に規定する面接授業に相当する教育効果を有すると認めたものであること。

- 一 同時かつ双方向に行われるものであって、かつ、授業を行う教室等以外の教室、研究室又はこれらに準ずる場所(大学設置基準第三十一条第一項の規定により単位を授与する場合においては、企業の会議室等の職場又は住居に近い場所を含む。)において履修せるもの
- 二 毎回の授業の実施に当たって、指導補助者が教室等以外の場所において学生等に面することにより、又は当該授業を行う教員若しくは指導補助者が当該授業の終了後すみやかにインターネットその他の適切な方法を利用することにより、設問解答、添削指導、質疑応答等による十分な指導を併せ行うものであって、かつ、当該授業に関する学生の意見の交換の機会が確保されているもの

【参考】関連通知

- 「学校教育法施行規則等の一部を改正する省令の施行等について」(平成 11 年 3 月 31 日通知) (抄)

第 2 大学設置基準（昭和 31 年文部省令第 28 号）の一部改正

2 大学設置基準第 25 条第 2 項の授業（以下「遠隔授業」という。）により修得することができる単位数の上限の拡大遠隔授業は、他大学との間で単位互換として行われる場合が少なくないことから、単位互換の単位数の上限の拡大に伴い、遠隔授業により修得することができる単位数の上限について、60 単位を超えない範囲内としたこと。

（改正後の第 32 条第 4 項関係）

なお、各大学において、124 単位を超える単位数を卒業の要件としている場合は、大学設置基準第 25 条第 1 項の授業によって 64 単位以上の修得がなされていれば、遠隔授業によって修得する単位数については、60 単位を超えることができるものであること。

- 「大学設置基準の一部を改正する省令等の施行等について」(平成 13 年 3 月 30 日通知) (抄)

第 7 平成 13 年文部科学省告示第 51 号（大学設置基準第 25 条第 2 項の規定に基づき、大学が履修させることができる授業等について定める件）等の制定

1 大学設置基準第 25 条第 2 項の規定に基づき、大学が履修させることができる授業（いわゆる「遠隔授業」）については、平成 10 年文部省告示第 46 号により規定されてきたところであるが、インターネット等の情報通信技術の進展にかんがみ、従来のものに加え、毎回の授業の実施に当たって設問解答等による指導を併せて行うものであつて、かつ、当該授業に関する学生の意見の交換の機会が確保されているもので、大学において、面接授業に相当する教育効果を有すると認めたものを遠隔授業として位置づけることとしたこと。

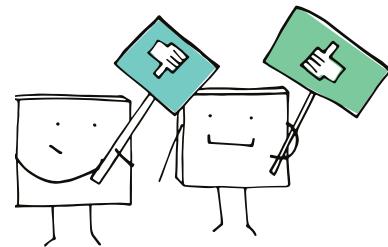
したがって、遠隔授業については、「同時かつ双方向に行われるもの」であることが必要とされてきたが、今回の改正によって、同時かつ双方向に行われない場合であっても、一定の条件を満たしていれば、これを遠隔授業として行うことが可能となること。

また、ここで必要とされる指導については、設問解答、添削指導、質疑応答のほか、課題提出及びこれに対する助言を電子メールやファックス、郵送等により行うこと、教員が直接対面で指導を行うことなどが考えられること。

なお、上記の指導は、印刷教材等による授業や放送授業の実施に当たり併せ行うこととされる添削等による指導（大学通信教育設置基準第 3 条第 2 項）とは異なり、毎回の授業の実施に当たって併せ行うものであることに留意されたいこと。

学生の意見の交換の機会については、大学のホームページに掲示板を設け、学生がこれに書き込めるようにしたり、学生が自主的に集まり学習を行えるような学習施設を設けたりすることが考えられること

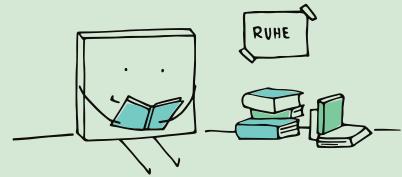
II 大学教育の TOPICS



1 授業設計と実施

TOPIC ① 授業時間外学習を促すコツ

1. シラバスで計画的な学習を促す
2. 毎回の授業で小テストを行う
3. グループで取り組む課題を出す
4. 課題には必ずフィードバックを行う
5. 課題内容を精査する
6. 関大LMSなどの学習支援サービスを活用する



TOPIC ② アクティブラーニングの推進

「考動力（自らの頭で自主的によく考え、自律的かつ積極的に行動する力）」を身につけるためには、従来の講義型の授業に加えて、書く、話す、発表する等の活動への関与と認知プロセスの外化（溝上、2014）が必要と言われています。

教育開発支援センターでは、アクティブラーニングの推進に向けて、ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーションなどの他の授業の知見や情報の提供を行っています。また、同時に TA（ティーチング・アシスタント）・LA（ラーニング・アシスタント）など学生の教育力を活用するための取組・支援を行っています。

事例集である「アクティブラーニング読本」シリーズ1～5をこれまでに発行してきました。グループワークやルーブリックなどを主なテーマとして発行し、全国の先生方からお取り寄せいただいている。本誌をご覧になりたい方は、以下までお問合せください。アクティブラーニングの導入の具体的な相談があれば、同様に以下までご相談ください。

【問合せ先】メール : ctl-staff@ml.kandai.jp

溝上慎一 (2014).『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』 東信堂



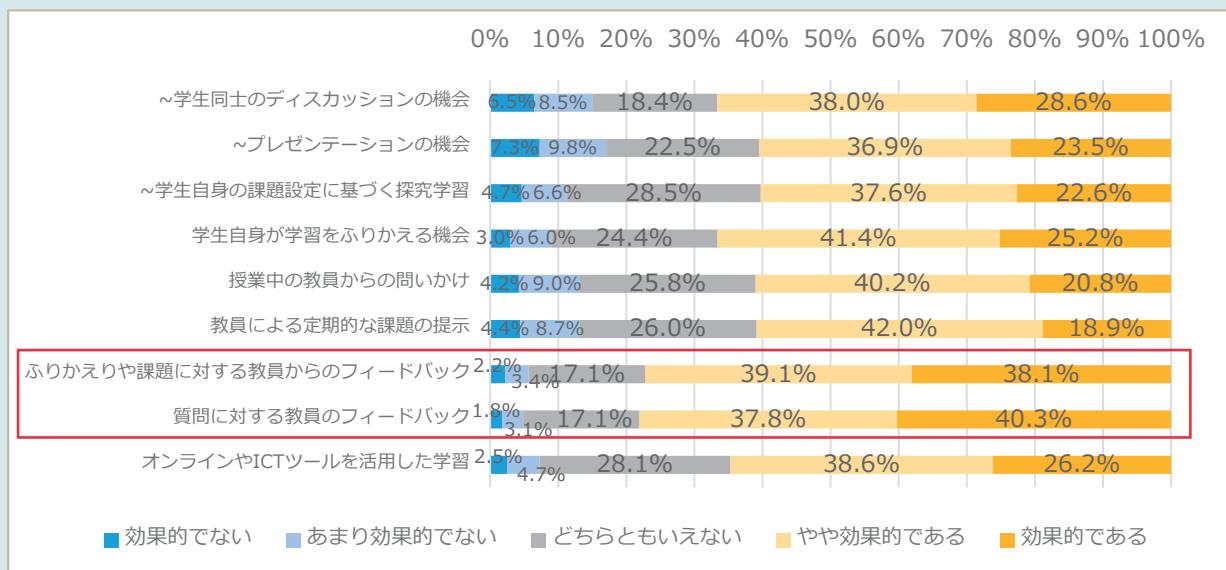
TOPIC ③ 学習意欲や学習効果を高める「教員からのフィードバック」の有効性

IR 推進委員会では、2021 年 7 月に「2021 年度春学期 授業・学生生活に関するアンケート」を全学生対象に実施しました（学部生有効回答：5,591 件、回答率：20.2%）。

対面か遠隔にかかわらず、学生が学習意欲や学習効果を高める活動として、「授業の振り返り・課題・質問に対する教員からのフィードバック」が効果的であるとの声が最も多く寄せられました。

これらを受けて、ご自身の担当科目においても、可能な限り、質問や作成した課題に対するフィードバック（解答の提示、個別あるいは全体講評等）などの教育活動を取り入れていただくことで、学生の学習成果の高まりにつながるかもしれません。その他、各学生調査の結果は、IR 推進委員会ウェブサイト（下記参照）から確認することができますので、ご自身の授業設計等の参考になれば幸いです。

【Q. 学習意欲や学習効果を高めるうえで、以下のような方法はどのくらい効果的ですか】



【調査結果（IR 推進委員会ウェブサイト）】
URL : <https://www.kansai-u.ac.jp/ir/research/index.html>



TOPIC ④ オンデマンド配信授業に関する支援

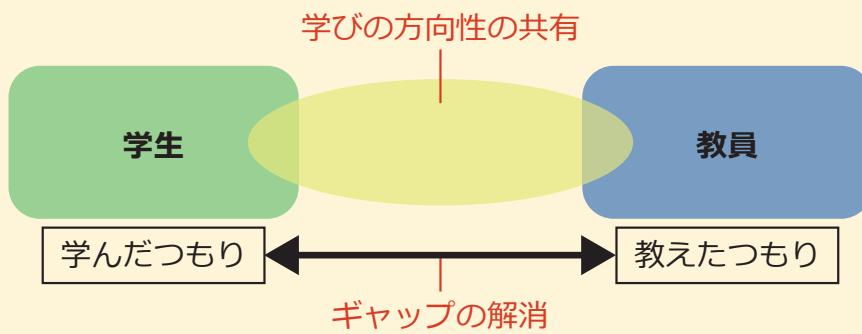
オンデマンド配信授業の設計、教授方法に関する問合せやご相談は「教育開発支援センター（ctl-staff@ml.kdandai.jp）」まで、関大 LMS やシステムに関する問合せは「ITセンター（itcsup@ml.kandai.jp）」までお願いします。

<p>【教育開発支援センター 授業コンサルテーション（個別相談）】 申込フォーム</p>	<p>【ITセンターサポートデスク】 問合せフォーム</p>
--	------------------------------------

2 学習評価と学習成果

TOPIC ⑤ ループリックの評価を授業でどのように使うのか

授業で使用するループリックには、学習活動を通して学生に到達してもらいたい評価観点とその内容が具体的に示されます。特定の課題について、予め学生に提示したループリックの観点に照らして、学習成果を評価します。その観点について、学生も教員も「できている」と評価する場合には、観点に記された学習成果については、一定の到達がなされているものとみなせます。一方、学生が「できている」と評価していても、教員が「できていない」と判断しており、学生と教員との間で異なる評価となるのであれば、その内容は教員が優先的に授業で取り上げるポイントとなります。実際の指導場面において、評価に照らしてどんなギャップがみられるのか、クラスで共有するのも良いでしょう。授業でこれからどんな学びが求められるのかについて、その方向性を共有することにつながるからです。学びの方向性を適切に共有するには、一歩進んだ学習成果物と共に、うまくできているポイントを改めて教示し、どうすればそこに近づけるようになるのかなどについて、評価に基づく振り返りの活動を要所で取り入れることが効果的です。振り返りの活動にループリックの評価を取り入れることを通して、学生はより納得感を持って、学習成果を意識し、自己評価能力を育みながら学びに向かうことが期待されます。



学生 - 教員間のギャップを解消し、学びの方向性の共有を支援するループリック

TOPIC ⑥ 「ループリックの使い方ガイド」の閲覧・入手

「ループリック」とは、文章作成や口頭発表、実習、グループワークなどのパフォーマンス課題を評価するツールです。

教育開発支援センターでは、ループリックを導入する際の教員の評価負担・説明負担の軽減や、学生の評価活動への関与を促すことを目的として開発された、「ループリックの使い方ガイド」を公開・配付しています。本ガイドには、ループリックの作成方法やサンプルを掲載した「教員用」と、学生向けにループリックの使い方を説明した「学生用」の2種類があります。いずれも下記ウェブサイトよりダウンロードいただけます。ぜひご活用ください。

【ループリックの使い方ガイドの入手先】

URL : <https://www.kansai-u.ac.jp/ctl/teacher/tool.html#rubric>



TOPIC ⑦ ニューノーマルの学習評価をどう考え実施するのか

学習評価とは、「学習実態を把握し、適切なフィードバックを行い、学習活動の成果を学習目標に照らして判断する営み」(山田、2018)です。学習評価は、授業が始まってから終わるまで全ての過程において、学生の学習活動を促す上で重要な役割を果たします。以下、ニューノーマルの学習評価を実施する際の4つのポイントについて紹介します。

(1) 試験方法を工夫する

遠隔授業において正誤問題等の知識を問う場合に生じる不正行為等のリスクを低減させる工夫として、「予め問題群をプールしておいて、試験問題のパターンを複数用意する」「試験問題の提示順をランダムにする」「小問ごとや一問ごとなど、解答時間を細かく区切る」などがあります。

(2) 試験問題を工夫する

知識そのものを問うのではなく、「問題自体を資料参照やネット検索にも耐えられるものにする」「解答に加えて、解答手順や使用した法則・原理も記述させる」「学習した概念やキーワードの関係性を図示（コンセプトマップ）し、説明させる」など、試験問題を工夫することも効果的です。

(3) 評価方法を検討する

最終試験のみで判断するのではなく、授業内外での小テストや論述・レポート、振り返り、アンケート、自己評価・相互評価等の提出や内容など、多様な評価方法を用いることが効果的です。

(4) ICT ツールを活用する

大学独自のLMSはもちろん、学生の意見を集約・可視化するICTツールも多く存在します。これらを活用することで学生との双方向性が確保できるとともに、評価負担の大幅軽減が見込まれます。

授業形態の違いによる評価方法の比較

	筆記試験 (客観テスト)	論述・レポート	平常点 (振り返り含む)
教室での対面授業	①教室の監督下で不正行為を防ぎつつ一斉に実施が可能	③課題（ルール・締切等）を明示し、実施・回収・採点	④授業後にミニッツペーパー等を用いて実施・回収・採点
オンライン授業 (同期型/非同期型)	②実施自体は可能だが、閲覧・検索・相談等の制御が困難	(*ICT活用で効果的・効率的な実施が可能)	(*ICT活用で効果的・効率的な実施が可能)

山田剛史 (2018).「学習評価の意義と課題を理解する」中島英博編『学習評価（シリーズ 大学の教授法 4）』玉川大学出版部, pp.2-9.

TOPIC ⑧ 「授業評価アンケート」から学習成果を問う「授業アンケート」へ

より質の高い教育を行うためには、直接学生の声を聞き授業に反映させることが必要であるとの認識に立って、2000年度から授業評価アンケートが開始されました。2011年度には、質問内容の変更、教員への「フィードバックシート」の返却、教員版アンケートの実施等の見直しが行われ、個々の授業改善につなげるアンケートとして定着してきました。

2020年度からは、従来の教員のパフォーマンスを問う質問項目に加え、学生自身が自らの学習を振り返る項目を追加しました。シラバスで示された到達目標を達成できたのかという到達度と、学習時間などの行動調査その内容です。その意味においても、学部・研究科等の教育目標と科目的到達目標や評価方法の関係性をシラバスの中で整理して示す必要があり、特に到達目標などは、わかりやすい形で学生に明示してアンケートによる振り返りを実施していただくことが授業改善のための有効な手立てとなります。

また、従来マークシート方式で実施していたアンケートをウェブ方式で実施することになり、即応性が高くなりました。より授業改善に活用しやすいアンケートになっておりますので、ぜひご協力・ご活用ください。なお実施目的や手順の詳細、担任者独自質問の設定方法、クロス集計の確認、ローデータのダウンロード方法等は、下記 URL または QR コードの「実施手順」をご覧ください。

URL : <https://www.kansai-u.ac.jp/ctl/support/questionary/>

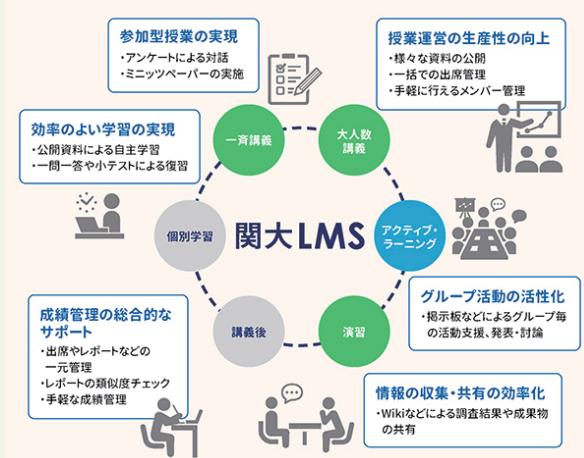


3 教育支援と学習リソース

TOPIC ⑨ 教育支援ツールの紹介

アクティブラーニングの推進や教員と学生のインタラクティブな環境を充実させるために、多様な教育支援ツールがあります。教育開発支援センターでは、様々な教育支援ツールの開発・推進及び教育支援サービスの提供を行っています。

- ・関大 LMS (Learning Management System)：関大 LMS とは、予習・復習の指示、課題レポートの提出、各種テスト、授業に関する質問受付・回答などの授業を補完できる学習支援システムのことです。その他にも、「資料公開」の機能もあり、様々なメディアの資料をすぐアップできます。スマホからのアクセスも可能で、学生はどこからでも資料閲覧が可能です。2022 年度より、動画の収録・編集・配信を一元管理できるクラウド型動画編集配信ソフト (Panopto (パノプト)) を全学的に導入しました。自動字幕をはじめとした様々な編集機能や学生の視聴履歴や視聴完了率などを確認することなどが可能となりました。詳細は教育開発支援センターのウェブサイトに掲載している「クイック操作ガイド」及び「アンケート教材作成・操作マニュアル」等の機能別のマニュアルをご確認ください。
- ・その他: グループワーク等の実施には「nu board (ヌーボード)」や「ライティングシート」が便利です。「nu board」は貸し出しを行っています。興味・関心のある方は遠慮なく、教育開発支援センターにお立ち寄りください。またはメール (ctl-staff@ml.kandai.jp) でのご連絡をお待ちしています。



TOPIC ⑩ 学部学生の日本語の文章作成をサポートする「ライティングラボ」

ライティングラボは学生のライティング（文章作成）をサポートしています。文章作成の指導・支援にご活用ください。おもな支援内容は次の通りです。

- ・各キャンパスのライティングラボで、訓練を受けたチューターが対面による個別相談を行っています。関西大学の学部生、大学院生であれば、だれでも相談することができます。
- ・対面相談に加えて、Zoom を使ったオンライン相談を 2020 年度から開始しています。
(教員の希望に沿った指導を行うことも可能です。)
- ・だれでも参加できる授業外セミナー「ワンポイント講座」を実施しています。
- ・授業に赴き、ライティングラボの利用方法やライティングの基本的な知識を解説する出張講座を実施しています。
- ・その他、ライティングに関するガイドブックの発行など、ライティングにかかる様々な支援をしています。

【ライティングラボのウェブサイト】

URL : <https://www.kansai-u.ac.jp/ctl/lab/index.html>



TOPIC ⑪ 教育・学習における ChatGPT 等の生成 AI ツールの利活用について

本学では、教員の教育活動や学生の学習活動における ChatGPT 等の生成 AI ツールの利活用について、以下のような方針を掲げています。

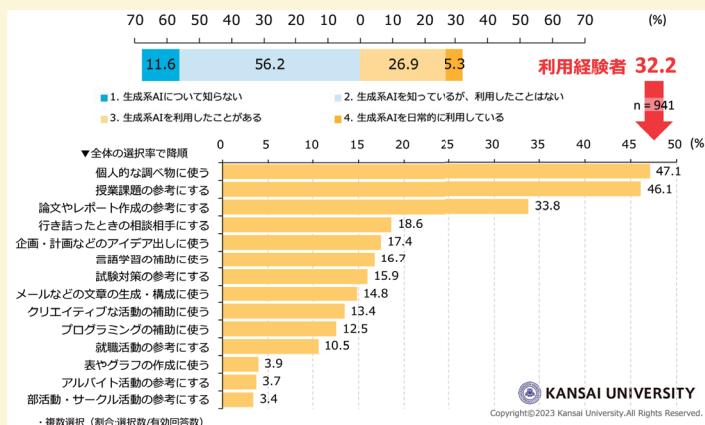
- ・生成系 AI ツールは、教員の教育活動の質的向上や業務の効率化に寄与する可能性を有するものです。また、学生が学習を進めるにあたり、生成系 AI ツールを活用することによって自らの思考を整理し、対話形式によって学習内容の理解をすすめることは、学習効果を高めることが期待されます。
- ・ただし、その生成された文章、翻訳、質問応答等には、精度が高い情報から、誤り、剽窃等を含むものまであり、その評価は信頼できるものには至っていません。私たちは、教育活動や学習活動をすすめるにあたり、生成されたものに対する検証や評価をすることが常に必要です。そのためには、生成系 AI ツールを正しく活用するためのスキルを身につける必要があり、倫理的な問題についても理解しなければなりません。
- ・また、その生成された文章、翻訳、質問応答等には、個人情報や機密情報の漏洩、セキュリティ上の課題が存在していることも認識しておく必要があります。生成されたものの取扱いは、慎重であることが求められます。また、自身が生成系 AI ツールに情報を入力する際には、これらの点について十分注意することが必要です。

上記の提言内容を踏まえると、生成 AI は人間と自然に対話しているように思えても、文章の意味内容を理解して応答しているわけではない場合には注意を払う必要があります。つまり学生への指導上の留意点としては、生成 AI が作成した文章を自分の文章であるかのようにふるまうことについては、授業で適宜注意を促すことが求められます。

なお IR 推進委員会では、「2023 年度 春学期の授業・学生生活に関する学生アンケート」を 7 月に全学生を対象として実施しており（学部生有効回答：2,955 件、回答率：10.7%）、そこでの調査結果をみると、学生の生成 AI の利用率は 3 割にのぼり、利用目的は、「個人的な調べ物」「授業課題の参考」が特に高いことがわかっています。

生成 AI 系ツールの効果的な活用について、教育開発支援センターを中心に今後も紹介されていく予定です。

【Q. 学習意欲や学習効果を高めるうえで、以下のような方法はどのくらい効果的ですか】



【関西大学 (2023) 教育・学習における ChatGPT 等の生成系 AI ツールへの対応について】

URL:
https://www.kansai-u.ac.jp/ja/about/pr/news/2023/04/post_70904.html



【関西大学 IR 推進委員会 (2023) 「2023 年度 春学期の授業・学生生活に関する学生アンケート】

URL:
<https://www.kansai-u.ac.jp/ir/2023/09/2023-1.html>



TOPIC ⑫ 障がいのある学生の修学支援における合理的配慮の提供について

令和3年に障害者差別解消法が改正され、令和6年4月1日より、国公立、私立を問わず、すべての大学等において、障がいのある人への障がいを理由とする不当な差別的取扱いの禁止及び合理的配慮の提供が義務化されました。この法改正により、大学教育においても、より一層の対応が求められています。合理的配慮とは、修学上の困難さがある障がいのある学生に対して、教育（授業）の目的・内容・評価の本質を変更せず、実施に過重な負担がない範囲で、社会的障壁を取り除くための変更や調整を行うものです。詳しくはインフォメーションシステム内「教務手帳」「障がいのある学生の修学支援（教職員のためのガイドブック）」を参照ください。